

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数 660人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	6	0.9
80～89	54	8.2
70～79	99	15.0
60～69	118	17.9
50～59	136	20.6
40～49	133	20.2
30～39	84	12.7
20～29	26	3.9
10～19	4	0.6
1～9	0	0.0
0	0	0.0

\*合格者の中から、無作為に抽出した660名(12.7%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
一	問一	93.4	
	問二	95.8	
	問三	82.0	
	問四	59.8	
	問五	38.6	
	問六	51.4	
小計		70.2	
二	問一	95.9	
	問二	66.2	
	問三	57.0	
	問四	38.9	
	問五	45.6	
	問六	37.0	
小計		56.8	
三	問一	80.4	
	問二	93.0	
	問三	42.2	
	問四	23.2	
	問五	41.2	
	問六	31.8	
小計		52.0	
四	問一	(1)	88.6
		(2)	65.5
		(3)	19.5
		(4)	81.2
		(5)	73.0
		(6)	36.7
		(7)	55.3
	問二	26.1	
	問三	75.8	
	小計		58.0

〈表3〉

大問	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
一 文学的文章	77.4	68.4	69.6	66.5	70.2
二 説明的文章	68.6	58.2	53.7	54.2	56.8
三 融合(古典・表現)	49.7	51.3	38.8	46.9	52.0
四 言語事項・書写	73.7	70.4	67.8	67.2	58.0

## 2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の人数は全体の24.1%で、昨年度と比べ2.5ポイント下がり、高得点者がやや減少している。また、40点未満の人数は17.3%で、昨年度と比べ1.3ポイント上がり、低得点者がやや増加した。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は8問(昨年度6問)、正答率40%未満の問題数は8問(昨年度5問)であり、ともに増加した。

基本的な語彙力や、読むことの基礎的な力を問う一の問題一、問二、二の問題一、三の問題一、問二については、正答率が高いものの、思考力、判断力、表現力等を必要とする一の問題五、二の問題六、三の問題五、問六は、いずれも正答率が低い。四の言語事項・書写の問題では、故事成語の意味を踏まえて文を作る問二が26.1%と低い。漢字の書き取りと読みで、特に正答率が低かったのは、問一の(3)「著す」の読みと、(6)「構築」の書き取りである。

〈表3〉について、一、二、三は、昨年度、一昨年度と比較して正答率が高くなっているが、言語事項・書写問題の四の正答率は、過去5年間で最も低い。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			
				記号選択	抜出	記述	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識 理解
目	一	文学的文章	文脈に即して適語（副詞・慣用句）を補充することができる。	○					●	●
	二		文章の展開に即して登場人物の心情をとらえることができる。	○					●	
	三		文章の展開に即して内容を的確にとらえることができる。		○				●	
	四		文章の展開に即して登場人物の心情をとらえることができる。	○					●	
	五		文章の展開に即して心情の変化とその理由をとらえ、書くことができる。			○		●	●	
	六		表現の仕方や文章の特徴を的確にとらえることができる。	○					●	
目	一	説明的文章	文脈に即して適語（接続詞）を補充することができる。	○					●	●
	二		論の展開に即して内容（理由）をとらえることができる。	○					●	
	三		論の展開に即して構成や展開をとらえることができる。	○					●	
	四		文章の要旨を的確にとらえることができる。	○					●	
	五		論の展開に即して内容（因果）をとらえることができる。	○					●	
	六		論の展開に即して内容（主旨）をとらえ、要約して書くことができる。			○		●	●	
目	一	融合（古典・表現）	漢文の訓読のきまりに従って読み、漢字を並べることができる。			○			●	●
	二		古文の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直すことができる。			○			●	●
	三		古文の展開に即して内容をとりえ、書くことができる。			○		●	●	
	四		徒然草の冒頭文を暗誦し、ひらがなで書き表すことができる。			○			●	●
	五		文章の内容を読み比べて、その違いについて書くことができる。			○		●	●	
	六		文章の情報を活用し、条件を踏まえながら自分の意見を書くことができる。			○		●		
四	一	言語事項・書写	学校教育用の漢字を正しく書くことができ、常用漢字を正しく読むことができる。			○				●
	二		故事成語の意味を踏まえ、条件に従って文を作ることができる。			○		●		●
	三		行書の特徴を指摘することができる。	○						●

#### 4 標準解答及び考察



##### 〈標準解答〉

問一	イ
問二	ウ
問三	突き抜けるような感覚
問四	エ
問五	(例) 自分のことはかまわないでほしいと思っていたが、本来の泳ぎを取り戻せるという僕の励ましにより、泳ぐことへの自信や闘志がわき、素直に僕を頼る気持ちに変わっている。
問六	ア

##### 〈ねらい〉

豊かな心を育てるという観点にも配慮し、文学的文章を読むための基礎力や、表現の意味と特徴、登場人物の心情などについて、叙述に即して的確に理解し表現する力をみる問題である。

##### 〈考察〉

- ・ 全体の正答率は、70.2%と例年よりやや高い(昨年度66.5%)。問一、問二、問三の正答率が高く、読むことの基礎的な力は、概ね身に付いていると考えられる。
- ・ 登場人物の心情の変化とその理由を記述する問五は、正答率が38.6%とかなり低い。無解答は少ないものの、心情の変化と理由のうち、いずれか一方を記述したものや、「花香の僕に対する心情の変化」ではなく、「花香の泳ぐことに対する考えの変化」を中心に記述したものが多かった。
- ・ 象徴的な表現から、登場人物の心情を読み取る問四、文章表現の特徴を問う問六についても、正答率はやや低い。

##### 〈今後の指導〉

- ・ 登場人物の行動や心情の変化などについて、本文の表現を手がかりにしながら、生徒の多様な読みを引き出し、検討・吟味する授業展開を工夫する。
- ・ 読みの視点を与え、なぜこのような書き方をしているのか、どのような工夫をしながら書いてあるのかなど、表現の仕方や効果にも着目させる。
- ・ 授業で扱った教材に関連する文章や本を紹介する、学校図書館等を活用して生徒の読書活動を積極的に促すなど、多様で良質な文章表現に触れさせる機会を増やす。



##### 〈標準解答〉

問一	エ
問二	イ
問三	8
問四	ア・ウ
問五	ウ
問六	(例) 世の中で生きていくということの前提となっているようなことについて疑問を持ち、問い続けるひとのこと。

##### 〈ねらい〉

論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるという観点にも配慮し、接続詞や文章の構成など、論理的文章を読むための基礎力、論の展開に即して内容を正確に読み取り要約する力、全体の要旨をとらえる力などをみる問題である。

### 〈考察〉

- ・ 全体の正答率は、56.8%とほぼ例年並みである。
- ・ 文章全体の要旨をとらえる問四、文章の主旨をとらえ、要約して書く問六の正答率が低く、文章の中心となる内容を正確に読み取る力や、文中の言葉を使ってまとめる力が不足している。問六では、文中の言葉をそのまま抜き出す形で答えている例も目立った。

### 〈今後の指導〉

- ・ 文章の内容理解だけでなく、文章の形式（論述の形式や論理の整合性など）にも着目させ、文章全体の論理展開と主張をとらえさせる。
- ・ 平素から、比較的長めで論理性の高い文章を読ませ、文章の一部分または全体について、その要点をまとめさせる場を多く設定するとともに、根拠を明確にしながら自分の考えや意見を述べさせる。
- ・ 説明的文章の中で使われる抽象的な概念を表す語句等に慣れさせ、設問の条件や字数制限に合わせたまとめ方を意識させる。



### 〈標準解答〉

問一	有 人 家
問二	なおあわれに
問三	(例) 変わりやすい人の心
問四	こころにうつりゆくよしなしごとを
問五	(例) Bは、桜が散ることを残念に思っているが、Dでは、桜が咲く前や、散った後にも趣があると考えている点。
問六	(例) 部活動で、長い時間練習をするほどうまくなると言う人がいるが、本当にそうだろうか。練習では、時間の長さだけでなく、質を高めることも大切だと思う。例えば、私が所属したサッカー部では、チームや個人の課題を常に意識し、それを克服するための練習に取り組んだ結果、技術が向上し、大会で好成績を残すことができた。

### 〈ねらい〉

読書指導や古典の優れた表現を味わうという観点にも配慮し、古典を読むための基礎力、古典に対する興味や関心、情報を効果的に活用し、条件に従って自分の考えを表現する力などをみる問題である。

### 〈考察〉

- ・ 全体の正答率は52.0%と、ほぼ例年並みである。漢文の訓読のきまりや古文の歴史的仮名遣いの読み方をみる問一、問二の正答率が高く、古典を読むための基礎力は身につけていると考えられる。
- ・ 昨年度に引き続き、有名な古典作品の冒頭文の暗誦を問四で出題したが、正答率は23.2%とかなり低い。また、中学校で学習する和歌の内容を問う問三の正答率も低く、古典に親しむ意欲や態度に課題がみられる。
- ・ 文章の情報を手がかりに、和歌の内容を読み比べてまとめる問五、文章の展開を生かして自分の意見を書く問六の正答率も低く、情報を読み取り、活用する力に課題がみられる。無解答率は、ともに12.5%であった。問五では、二つの歌を対比させて述べていない解答が目立ち、問六では、文章の展開を生かした書き方をせず、一般的な考え方に対する自分の意見を冒頭で述べていないものや、自分の意見と具体例がかみ合っていないものが多くみられた。

### 〈今後の指導〉

- ・ 古典を読むための基本的な知識や技能の定着とともに、日頃から音読・朗読などを通して古典に親しませ、古典特有のすぐれた表現や文章のリズムを実感させる授業展開を工夫する。
- ・ 資料等から必要な情報を読み取る、古典を鑑賞するなどの「読む学習」と、それについて自らの考えや意見をまとめる「書く学習」の場面を設定し、書く際には、与えられた条件を基に的確に表現させる。
- ・ 普段から読書活動や多様な言語活動を行い、日常の自己の言語生活を豊かにする意識をもたせる。

**四**

## 〈標準解答〉

問一	(1) いただき (2) すんか (3) あらわ(した) (4) 留守 (5) 姿勢 (6) 構築 (7) 奮い
問二	(例) 私は、自分の気持ちをうまく伝えるために、作文の推敲を何度も行った。
問三	イ

## 〈ねらい〉

言語生活の向上を図るという観点にも配慮し、文字力、故事成語の意味や文の成分、書写の基礎的な力について、それぞれの理解をみる問題である。

## 〈考察〉

- ・ 全体の正答率は58.0%と、例年に比べて低い(昨年度67.2%)。
- ・ 問一の漢字の読みと書き取りについては、生徒が日常的に使い慣れていない語彙(「著した」の読みや「奮い立つ」の書き取り)、抽象的な内容を表す語彙(「構築」の書き取り)の定着が不十分である。「著した」については、「しる(した)」と解答したものが40%、「いちじる(した)」と解答したものが25%であり、文脈から誤った読みを記述したり、別の訓読みを当てはめたりする誤答が目立った。
- ・ 問二については、「推敲」の意味を十分にとらえきれず、「任務を推敲した」などの誤答もみられた。また、主語を含まない短文を書いたものも多く、文法の知識・理解が、日常の言語生活に生かされていない傾向がみられた。

## 〈今後の指導〉

- ・ 語彙の指導については、系統的、継続的な指導はもちろんのこと、生徒が実際の日常生活に生かそうとする意欲や態度を育てるよう配慮する。また、語彙を豊かにするために、学校図書館を活用して読書指導を行うなど、様々なジャンルの文章に親しませる。
- ・ 文法指導においては形式的な指導に陥ることのないように、文脈の中における働きや活用に注目させ、さらに文法の理解を他の言語活動における理解や表現に役立てるよう工夫する。
- ・ 言葉そのものに対する興味・関心を養い、言語生活を豊かにしていくための指導を日常的に継続して行う。